

# 令和3年 **11**月の**思いやり**通信

## 目次

- (1)  太陽光パネル 路面に敷設
- (2)  石炭5割・石油2割削減を 2030年時点、I E A長期目標
- (3)  CO<sub>2</sub>排出ゼロ「年450兆円必要」 I E Aが見解
- (4)  コスト高 普及阻む 太陽光 日本、米中の2倍超
- (5)  2030年排出量、世界16%増 2010年比 中印据え置きで
- (6)  排出ゼロでも2.2度上昇 新政策の実行迫る

## (1) 太陽光パネル 路面に敷設

### 道路大手、E V充電・街灯向け 再生エネ発電 場所拡大

\*道路舗装大手が路面に太陽光パネルを敷き詰めて発電する事業に乗り出しています。

\*普及には設置コストや耐久性などの課題解消が欠かせません。

\*東亜道路工業は仏道路建設大手コラスと技術開発で協力。

・厚さ6ミリのパネルを舗装面に貼り付けます。

・2023年から駐車場や公園、遊歩道への設置の本格化をめざします。

\*国内最大手のN I P P Oは省エネ機器製造のM I R A I — L A B Oとパネルの開発を進めます。

・発電した電力は地下に置いた蓄電池を通じ、街灯や信号機、E V充電器などに供給します。2022年度に実用化する予定。

\*大林道路も路面に埋め込むパネル製造に取り組みます。

\*道路各社が見据えるのはE Vの普及。

\*道路に埋め込んだ送電装置で走行中のE Vの電池に無線で自動給電する技術開発も進んでいます。

\*国内の道路の総延長は約130万km。

\*パネルを路面に設置するにはアスファルトを削るといった工事が必要。

・設置コストは屋根置き型の約4~5倍。

\*道路法改正が必要となる可能性も。

・現行法は路面での太陽光パネルの設置を想定していません。

\*発電効率も課題。

・パネル表面を樹脂で加工することで太陽光の吸収効率が下がるから。

\*トラックなどの重さへの耐久性の向上もかかせません。  
(2021年10月10日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (2) 石炭 5割・石油 2割削減を

### 2030年時点、I E A長期目標 再生エネ 安定供給に課題

\*国際エネルギー機関（I E A）は、2050年に世界の温暖化ガス排出を実質ゼロにするには、2030年時点で石炭を2020年比で5割、石油を2割それぞれ減らす必要があるとの見解を示しました。

\*石炭は、2050年には約1割に減らす必要があります。

・石油は2050年に4分の1に。

・天然ガスは2030年には1割弱減る程度ですが、2050年には半分弱に。

\*再生可能エネルギーは最大のエネルギー供給源となり、2050年時点では67%を占めます。太陽光は20倍強、風力は15倍に。

\*原子力は2倍と、エネルギー供給の11%を占めます。

(2021年10月14日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (3) CO2排出ゼロ「年450兆円必要」 I E Aが見解

### 投資、現状の3倍以上 世界で石炭回帰の動きも

\*国際エネルギー機関（I E A）は世界エネルギー見通しで、脱炭素に向けて年間4兆ドル（約450兆円）の投資が必要との見解を示しました。

・現状の3倍以上にあたる水準。

\*世界では石炭利用を増やすなど逆行する動きも。

(2021年10月14日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (4) コスト高 普及阻む 太陽光 日本、米中の2倍超

\*日本の太陽光の発電コストは、1キロワット時13.5円（1ドル=114円換算）。

・5円の中国や6.5円の米国の2倍超で、7.3円のフランスや7.6円のドイツより8割高。

\*平地が少ない日本は太陽光発電の整備費が割高。

(2021年10月23日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (5) 2030年排出量、世界16%増

2010年比 中印据え置きで 温暖化ガス 1.5度目標遠く 国連報告

\*国連気候変動枠組み条約事務局は、各国が提出した2030年の温暖化ガスの排出削減目標が、国際枠組みの「パリ協定」の目標に合致しているかを分析した報告書を公表。

・現段階の削減目標では、2030年時点での温暖化ガス排出量が2010年比16%増になると指摘。

\*現行目標では、気温上昇は今世紀末に2.7度になる可能性。

\*気温上昇を2度未満にするには、2030年時点の排出量を2010年比25%減、1.5度以内に抑えるには45%減にする必要。

\*日本が掲げた2030年度の2013年度比46%削減など、米欧を含め主に先進国は大きく深掘した目標を提出・更新。

\*中国は今のままの政策では、2030年時点の排出量は2020年とほぼ変わりません。

\*途上国の温暖化ガス排出量は、全体の6割を占めます。

\*中国はなお発電量の6割を、インドは7割を石炭に頼っています。

(2021年10月26日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

## (6) 排出ゼロでも2.2度上昇 新政策の実行迫る

50か国・地域、抑制0.5度止まり 国連が試算

\*国連環境計画（UNEP）は、温暖化ガスを実質ゼロにすると表明した50か国・地域が約束を果たしても、2.7度と見込む気温上昇を0.5度しか抑えられないとの試算を公表。

\*世界気象機関（WMO）は、大気中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）濃度が2020年に過去最高を更新したと発表。

\*新型コロナウイルス禍で経済活動が停滞した2020年に、世界のCO<sub>2</sub>排出量は前年比5.4%減。

・2021年は過去最高水準だった2019年を若干下回る程度にまで増える見通し。

\*人間活動で生じる二酸化炭素のほぼ半分は、海や森林などが吸収。

・今後は干ばつや森林火災、海水温上昇などによって吸収量が減る恐れ。

(2021年10月27日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)